

## 2015 年欧州航路往航荷動き量の減少とその要因

掲載誌・掲載年月：日刊 CARGO 201511

日本海事センター企画研究部

専門調査員 上野 絵里子

世界経済が緩やかな伸びにとどまる中、15 年欧州航路往航（アジア発欧州向け）の荷動き量は前年割れが続いている。この荷動き量減少の背景には、欧州経済が緩やかな回復基調にとどまっていることや、ユーロ安や原油安、イランやロシアへの経済制裁など、欧州周辺諸国の地政学的問題など様々な要因があると考えられる。Container Trade Statistics 社（以下、CTS 社と略す）のデータによると、15 年の荷動き量減少の主要因はユーロ圏（東欧 5 か国およびフィンランドを除く 11 か国）および英国、ロシア地域の荷動き量減少にある。

欧州往航荷動き量の減少には、欧州側の要因と欧州以外の要因によるものと 2 つの側面から見る必要がある。すなわち、欧州自体の経済や政治情勢が与える荷動き量への影響と、欧州の輸出相手国の経済や政治情勢が与える輸出入への影響である。例えば、加工貿易という観点からみると、欧州の貿易相手国の成長鈍化による需要の減少によって、欧州の製造業の生産量が落ち込み、欧州の部品や中間財輸入が減少すると考えることも可能である。現在の欧州とロシア間相互の経済制裁が荷動き量に与える影響はこのタイプの要因であると言える。しかし、今回は、先ず、欧州側の要因に限定して、EU28 か国間の貿易概況から 15 年欧州航路往航荷動き量の減少について考察する。

### 欧州航路往航の概況

15 年 1-9 月の欧州航路往航荷動き量は、前年比 4.8%減となる 1114.2 万 TEU であった。

地域別にみると、第 1~3 四半期（1-9 月）の累計で前年比マイナスとなっているのは、英国、ユーロ圏およびロシアである。

四半期別成長率（前年同期比）の推移で見ると、15 年第 1 四半期以降、ロシアにおいて減少率が徐々に縮小する一方で、英国およびユーロ圏の減少率は徐々に大きくなっている。15 年第 1~3 四半期の荷動き量純減に対する各地域別割合を見ると、英国が 7.0%、ユーロ圏 11 か国が 77.7%、ロシアが 15.4%となっており、これら 3 地域で 15 年往航荷動き量の減少分を全てカバーしてしまう。

また、過去最高を記録した 14 年の地域別四半期データと比較すると、14 年における往航の荷動き量増加の主要因は、ロシアおよび北アフリカ地域を除いて全体的に増加が見られたことと、なかでも、欧州航路の 65%近くを占める英国およびユーロ圏 11 か国の伸び率が年

間を通して高かったことにある。

ウクライナ情勢をめぐる欧州およびロシア間で一部品目の禁輸が実施された14年8月以降、欧州航路においてロシア向け貨物が徐々に減少率を拡大し、14年10月以降2桁減が続いてきた。しかし、15年3月の35.9%減をピークに6か月連続で減少率が縮小してきている。一方、欧州航路往航において常に上位3か国を占めるドイツ、英国、オランダの荷動き量は、15年3月以降6か月連続で2桁減となっている。ロシアの減少が続く中、欧州航路トップ3か国の減少が拡大していることが現在の欧州航路荷動き量の減少の特徴である。

### EU28 か国経済

EU28 か国の実質経済成長率は、2013年第2四半期以降、前期比0.3~0.5%の間で推移してき、ており、15年第3四半期は0.4%になっている。GDPの内訳をみると、個人消費は2013年第2四半期以降9期連続で伸びている。14年夏以降急落した原油安の影響は個人消費を下支えすると期待されていたものの、個人消費は2014年第4四半期をピークにやや減少傾向が見られる。政府支出は2012年第3四半期以降成長率へ一貫してプラスに寄与している。一方、2013年第2四半期以降比較的堅調に伸びてきた民間投資は、15年第2四半期は横ばいとなった。民間投資の内訳を見ると、14年第4四半期以降設備投資が堅調な一方で、住宅投資は横ばい、住宅以外の建設投資は増加率が落ちている。外需についてみると、ユーロ安を背景に輸出は比較的堅調に推移している。しかし、15年第1四半期は、輸入が輸出を大幅に上回ったため、GDPにはマイナスの寄与となった。

EU28 か国の2010年を100とした鉱工業生産指数は、製造業が回復基調を維持する中、2013年第2四半期以降、鉱業生産の落ち込みが顕著になっている。この傾向は、15年に入り一段と加速している。2015年9月の鉱工業生産指数は製造業が2015年1月の104.8から0.8ポイント上昇の105.6ポイントであったのに対して、鉱業は2015年1月の80.8ポイントから6.3ポイント減少の74.5ポイントであった。また、建設関連の生産指数を見ると、2015年3月をピークに下落傾向にある。

### EU28 か国の貿易概況

国連統計部がまとめているUN COMTRADEによると、EU28 か国の14年の貿易総額は、4兆6,211億USドルで、うち輸出は2兆3,397億USドル、輸入は2兆2,813億USドルであった。輸出相手国のトップは米国で、輸出額の17.5%を占める。次いで、第2位の中国は9.3%、2008年には第2位であったロシアは2009年以降第4位に後退し5.8%、現在、第3位のスイスは8.0%となっている。一方、輸入相手国のトップは中国で、輸入額の17.6%を占める。第2位の米国は11.9%、第3位はロシアの9.7%となっている。

欧州連合統計局がまとめているユーロスタットを用いて 12-15 年の EU28 か国の域外向け貿易額推移を輸出入について見ると、輸出相手国第 1 位の米国は 2013 年第 4 四半期以降堅調に伸びてきたが、15 年第 2 四半期をピークにやや伸び率が落ちている。第 2 位の中国は、13 年第 3 四半期以降伸びているが、15 年に入りやや伸び率が落ちている。第 3 位のロシアは 2013 年第 1 四半期以降減少に転じ 15 年まで減少率を拡大させてきた。この他、東アジア（香港、台湾、日本、韓国）及び ASEAN 向け輸出は 14 年第 3 四半期以降伸びている。

EU 域外からの輸入においては、第 1 位の中国は 14 年第 1 四半期以降堅調に伸びてきたが、15 年に入りやや伸び率が縮小している。第 2 位の米国も、同じく、13 年第 4 四半期以降堅調に伸びているが、15 年に入りやや伸び率が縮小している。第 3 位のロシアは 2013 年第 1 四半期以降減少に転じ 15 年にかけて減少率を拡大させてきた。しかし、15 年に入り、減少率がわずかではあるが縮小に転じており、海上荷動き量と一致した傾向を示している。この他、東アジア（香港、台湾、日本、韓国）及び ASEAN からの輸入は 14 年第 1 四半期以降伸びている。

#### EU28 か国の中国からの主要輸入 25 品目（重量ベース）

15 年の欧州における海上輸入貨物の中でどのような品目が減少しているのかについて、ユーロスタットを用いて 14 年および 15 年 1-9 月の EU28 か国および中国間の海上輸入貨物データを用いてみると、HS コード 2 桁の分類による 97 品目のうち、56 品目が前年比でマイナスとなっている。

表は、EU28 か国の中国からの重量ベース（トンベース）に基づく主要海上輸入品目のうち上位 25 品目掲載している。これら 25 品目で、重量ベースでは中国からの全輸入量の 86.3%をカバーし、金額ベースでも 86.4%をカバーしている。ただし、ユーロスタットは輸送モード（海上、航空、鉄道）別の輸送統計を公表しているが、海上輸送ではコンテナ貨物を分けていない。このため、主要輸入 25 品目の荷動き量（トンベース）とコンテナ貨物の荷動き量（TEU ベース）とは必ずしも一致しない。例えば、15 年 1-9 月の中国発欧州向けコンテナ貨物の荷動き量は前年比マイナス成長となったものの、トンベースに基づく欧州の海上輸入貨物は 5.0%と伸びている。これは、一つには、ばら積船やタンカーなどの不定期専用船による鉄鋼（同 72）や鉱物性燃料・鉱物油・瀝青物質（同 27）など大きな重量のウェイトを占める品目が伸びていることが一因と考えられる。そこで、鉄鋼（HS コード 72）、鉄鋼製品（同 73）、完成車（87）、銅鉱・鉛鉱・亜鉛鉱（同 26）と鉱物性燃料・鉱物油・瀝青物質（同 27）の 5 品目については、本来は、さらに細かくコンテナ貨物と非コンテナ貨物（不定期専用船積）貨物に分類する必要がある。これら 5 品目のうち銅鉱・鉛鉱・亜鉛鉱（同 26）を除いた 4 品目は EU28 か国が中国から輸入する主要 25 品目に含まれている。

そこでコンテナ貨物の品目を推定するにあたり、今回はこの4品目を除いて15年EU28か国の中国からの主要輸入品目の減少品目についてみることにする。

15年1-9月の累計でマイナス成長となった貨物について、全体の変化に対する品目別増減率を示す寄与度の順で見えていくと、石材(HSコード68)、土石類(同25)、機械類(HSコード84)ガラス製品(同70)、陶磁製品(同69)などとなっている。また、上位10品目ではないが、履物(同64)、衣類(同61および62)、繊維用繊維(同42)、皮革製品(同42)などアパレル関係の品目が軒並み減少している。2015年6月10日にみずほ銀行産業調査部より発行されたレポートによれば、現在、欧州のアパレルマーケットはEUという単一市場を背景としており、世界最大のマーケットを形成しているという。しかしながら、同レポートでは、国内市場が飽和状態にあり、中長期的に縮小していく市場であると結論づけている。一方、アジア側をみると、国際分業がすすみ、アジアの工場である中国から、比較的人件費の安いベトナム、バングラディッシュやインドなどへ生産拠点がシフトしつつある。このため、中国からのアパレル製品の輸出が落ちているという可能性も考えられる。

また、上位25品目以外では、シェアこそ小さいものの、第1四半期に伸びたリーファー貨物の荷動き量も落ちている。品目で見ると、魚介類(同3)、肉、魚などの調整品(同16)、穀物(同19)、飲料・アルコール類(同22)、たばこ類(同24)食用油脂(同15)、ココア(同18)などとなっている。

表1

EU28か国の中国からの主要輸入品目上位25品目(重量ベース)

単位:千トン

	HSコード	和分類名	2014年 1-9月累計	2014年計	2014年計 シェア	2015年 1-9月累計	シェア	前年比	寄与度
1	84	ボイラーなどの機械類並びにこれらの部分品	4,258	5,940	11.3	4,173	10.07	▲ 2.01	▲ 0.22
2	72	鉄鋼	3,593	4,876	9.3	5,036	12.15	▲ 40.15	3.65
3	85	電気機器及テレビ、ビデオなどAVおよびその部分品	2,866	3,930	7.5	3,153	7.61	10.00	0.73
4	94	家具、寝具類並びにプレハブ建築物	2,661	3,492	6.6	2,697	6.51	1.37	0.09
5	73	鉄鋼製品	2,515	3,280	6.2	2,565	6.19	1.95	0.12
6	68	石、プラスター、セメント、石綿、雲母などの石材	2,253	2,845	5.4	2,070	5.00	▲ 8.12	▲ 0.46
7	44	木材及びその製品並びに木炭	1,360	2,236	4.2	2,065	4.98	51.89	1.79
8	39	プラスチック及びその製品	1,691	2,192	4.2	1,722	4.15	1.82	0.08
9	29	有機化学品	1,191	1,551	2.9	1,221	2.95	2.53	0.08
10	95	がん具、遊戯用具及び運動用具など部分品及び附属品	1,027	1,423	2.7	1,030	2.48	0.32	0.01
11	87	自動車などの車両並びにその部分品及び附属品	1,059	1,351	2.6	1,015	2.45	▲ 4.22	▲ 0.11
12	70	ガラス及びその製品	943	1,231	2.3	859	2.07	▲ 8.87	▲ 0.21
13	25	塩、硫黄、土石類、プラスター、石灰及びセメント	924	1,192	2.3	792	1.91	▲ 14.28	▲ 0.33
14	69	陶磁製品	896	1,182	2.2	816	1.97	▲ 8.91	▲ 0.20
15	40	ゴム及びその製品	806	1,049	2.0	818	1.97	1.53	0.03
16	28	貴金属、希土類金属の化合物	769	1,000	1.9	703	1.70	▲ 8.61	▲ 0.17
17	64	履物及びその他これに類する物品並びに部分品	684	832	1.6	638	1.54	▲ 6.72	▲ 0.12
18	61	衣類及び衣類附属品(メリヤス編み又はクロセ編みのものに 限る。)	590	788	1.5	533	1.29	▲ 9.52	▲ 0.14
19	48	紙及び板紙並びに製紙用パルプ、紙又は板紙の製品	554	733	1.4	535	1.29	▲ 3.48	▲ 0.05
20	62	衣類及び衣類附属品(メリヤス編み又はクロセ編みのものを 除く。)	569	724	1.4	516	1.25	▲ 9.24	▲ 0.13
21	83	各種卑金属製品	518	676	1.3	501	1.21	▲ 3.29	▲ 0.04
22	63	繊維用繊維のその他の製品、中古の衣類など	514	675	1.3	507	1.22	▲ 1.43	▲ 0.02
23	42	革製品及び動物用装着具並びに旅行用具、ハンドバッグなど	522	667	1.3	499	1.20	▲ 4.41	▲ 0.06
24	76	アルミニウム及びその製品	435	590	1.1	531	1.28	21.99	0.24
25	27	鉱物性燃料並びに炭、タールなど	429	483	0.9	769	1.86	79.18	0.86
		25品目小計	33,629	44,938	85.3	35,765	86.30	6.35	5.41
		中国からの輸入量合計	39,478	52,682	100.0	41,444	100.0	4.98	4.98

注1: 主要輸入品目は2014年のEU28か国-中国間の輸入貿易実績(重量ベース)に基づく

出所: EUROSTATより日本海事センター作成

## まとめ

今回は、15年欧州航路往航荷動き量の減少要因について、欧州サイドの要因についてEU28か国の現状から考察を試みた。現在、EU28か国の経済は緩やかながらも回復基調にある。その一方で、原油安による個人消費の下支えが期待されているが、15年は14年ほどには伸びそうにない。また、これまで堅調であった民間投資が15年第2四半期は足踏みをし、設備投資が堅調な中、建設関連投資の伸び率が落ちている。鉱工業生産指数をみると、製造業が上昇傾向を維持する一方で、鉱業生産及び建設関連指数が15年3月以降減少率を加速させている。EU28か国の貿易概況をみると、15年の外需は米国、アジアを中心に概ね堅調である。その一方で、主要貿易相手国であるロシアは15年に入り減少し続けている。また、EU28か国の最大の輸入相手国である中国からの海上主要輸入品目（重量ベース）を見ると、15年現在、最も減少しているのは建設関連資材である石材であった。次いでセメントなどの土石類や機械類が続く結果となっており、15年欧州の荷動き量減少の欧州側の要因としては、欧州の製造業や設備投資が伸びている一方で、建設需要が緩やかな伸び率になっていることが一つの原因である可能性を示唆している。